

むかしむかし、きつちよむさんと言う、とんちの上手な人がいました。

ある日の事、村の男たちがお堂に集まって、酒もりをしていました。

そこへきつちよむさんが手ぶらでやって来て、酒やごちそうをさんざん飲み食いすると、
「それでは、ごちそうさん」

と、言って、さっさと帰ってしまいました。

その場にいた男たちは、カンカンです。

「なんだ、きつちよむさんのやつ。手ぶらで来たくせに、さんざん飲み食いしやがって」

「そうだ！ 今度手ぶらで来たら、追い返してやろう！」

すると、それを知ったきつちよむさんは、

「そうか、手ぶらでは入れてくれんか。まあ、入ってしまえばどうとでもなるが」

と、ある作戦を考えました。

次の晩、今日も村の男たちがお堂で酒もりをしていると、きよむさんがまたしても手ぶらでやって来ました。

しかしお堂の戸が、ピタリと閉められています。

「おーい、開けてくれ」

きつちよむさんが声をかけると、中にいる男たちが言いました。

「酒を買って来るまでは、中に入れてやらん」

するときつちよむさんが、待ってましたとばかりに言いました。

「何を言っている！ はやく開けてくれんと、こぼれてしまうだろう！ ああ、こぼれそうじゃ、こぼれそうじゃ」

「何じゃ、それをはやく言え」

男たちはてっきり、きつちよむさんがお酒を買って来たものだと思って急いで戸を開けました。

ところがきつちよむさんは、いつもの通りの手ぶらだったのです。

男たちは、きつちよむさんに文句を言いました。

「何だ？！ 『こぼれそうじゃ』と言うから開けてやったのに、今日も手ぶらじゃねえか。きつちよむさん、よくもうそをついたな！」

するときつちよむさんは、平気な顔で言いました。

「なにが、うそなもんか。

わしはな、さむくてさむくて、鼻水が『こぼれそうじゃ』と言ったんじゃ。

・・・おや？

今日はなべか、これは体があたたまりそうじゃ」

きつちよむさんはわざと鼻水をすすり上げると、またしても手ぶらで飲み食いをしたのでした。

溢出來了、溢出來了

很久很久以前，有一個叫吉四六的人，他非常機靈。

有一天，村裡的男人們都聚集在大堂裡喝酒。

這時候，吉四六空著手來了。他大吃大喝之後，說了句：

“那麼，多謝款待！”

然後就迅速回家了。

在場的男人们都很生氣。

“什麼呀，吉四六這傢伙。兩手空空，白吃白喝！”

“就是說啊，下次再空著手來，就把他趕回去！”

話這麼說，卻給吉四六知道了。他想：

“空手去的話不給進啊。不過，只要想辦法進去了，大家又能奈我何。”

於是他想了一個對策。

第二天晚上，村裡的男人又在大堂裡喝酒的時候，吉四六又空著手來了。

但是大堂的門卻緊緊關著。

“喂，給我開門！”

聽到吉四六的聲音，其中一個男人說：

“你沒買酒來之前，門是不會開的。”

聽了這話，吉四六像等不及似的說道：

“說什麼呀！不有點開門的話，就會溢出來了！啊，要溢出來了，要溢出來了！”

“什麼嘛，不早說！”

男人们都以為吉四六已經買了酒過來，急急忙忙開了門。

但是開門後，發現吉四六還是和以前一樣空著兩手。

男人们抱怨道：

“搞什麼？！我們是聽說「要溢出來了」才給你開的門。結果，你今天還是空著手來？吉四六你真會騙人啊！”

聽了這話，吉四六一臉平靜地說道：

“什麼啊，我怎麼會騙人？

我只是覺得很冷很冷，就說鼻水「要溢出來了」……

噢，今天是火鍋啊，吃了這個，身體應該會暖和起來。”

吉四六還故意吸了吸鼻子，這下子又讓他空著手白吃白喝。

----- 結束 -----